

対象植物の範囲

植物分類学上の「パルテノキッスス」はブドウ科 (Vitaceae) ツタ (パルテノキッスス) 属 (*Parthenocissus* Planch.) を示し、本基準案はツタ属を対象とする。

特性審査基準(案)
(1)特性審査基準(案)

重要な 形質	番号	形質	定義	調査 方法	状態又は 区分	階 級	標準品種	備考
幹の 形状	1	茎の太さ	主茎の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7		1mm 2mm 3mm
	2	茎の長さ	主茎の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		30cm 50cm 70cm
	3	茎の横断面の形	幼枝の横断面の形	観察	四角 丸	1 2	P. henryana	
	4	茎の色	新梢の色	観察	黄緑 緑 緑褐 褐 紅 紫紅 その他	1 2 3 4 5 6 9		
	5	分枝性	主茎の分枝の多少	測定 (本)	少 中 多	3 5 7		1本 3本 5本
	6	節間長	主茎の中間部の5節間の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		10cm 20cm 30cm
枝の 形状	7	分枝の太さ	最長1次分枝の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7		0.5mm 1.5mm 2.5mm
	8	分枝の長さ	最長1次分枝の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		10cm 30cm 50cm
	9	分枝の節間長	最長1次分枝の中間部の5節間の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		10cm 20cm 30cm
	10	巻きひげの吸盤の有無	巻きひげの吸盤の有無	観察	無 有	1 9	P. inserta	
葉の 形状	11	単葉、複葉の別	単葉(単身複葉)、複葉の別	観察	単葉 複葉 混在	1 2 3		
	12	単葉、複葉の構成比率(単葉・複葉が混在する品種のみ)	単葉、複葉の構成比率	観察	主に単葉 同程度 主に複葉	1 2 3		
	13	葉の長さ	最大葉の長さ(単葉・複葉の構成比率が同程度の場合は両方が対象)	測定 (cm) 図1	短 中 長	3 5 7		5cm 10cm 15cm
	14	葉の幅	最大葉の幅(単葉・複葉の構成比率が同程度の場合は両方が対象)	測定 (cm) 図1	狭 中 広	3 5 7		5cm 10cm 15cm
	15	葉の毛の有無	葉表面の毛の有無	観察	無 有	1 9		
	16	葉の毛の密度	葉表面の毛の密度	観察	粗 中 密	3 5 7	Engelmannii'	
	17	葉の光沢	葉の光沢の程度	観察	弱 中 強	3 5 7		1 P. henryana

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
葉の形状	18	葉縁の形	葉縁の形 (複葉の場合は頂小葉が対象)	観察 図2	全縁 円鋸歯 鋸歯 歯状 重鋸歯 その他	1 2 3 4 5 9		
	19	葉の鋸歯の密度	葉縁の鋸歯の密度	観察	粗 中 密	3 5 7	P. henryana P. inserta	
	20	葉の鋸歯の位置	葉縁の鋸歯の位置 (複葉の場合は頂小葉が対象)	観察 図3	全体 上部1/2部分	1 2		
	21	葉縁のとげの明瞭度	葉縁のとげの明瞭度 (複葉の場合は頂小葉が対象)	観察 図4	不明瞭 やや明瞭 明瞭	1 2 3	P. henryana P. inserta	
	22	新葉のアントシアニンの着色	新葉表面のアントシアニンの発現の有無	観察	無 有	1 9		
	23	葉の表面の色	成葉の表面の地色	観察	淡緑 緑 濃緑 淡赤 赤 赤紫 紫 その他	1 2 3 4 5 6 7 9		
	24	葉の裏面の色	成葉の裏面の色 (葉脈は除く)	観察	淡緑 緑 濃緑 淡赤 赤 赤紫 紫 その他	1 2 3 4 5 6 7 9		
	25	葉の模様の有無	成葉の模様の有無	観察	無 有	1 9		
	26	葉の模様の種類	成葉表面の模様の種類	観察 図5	覆輪 中斑 掃き込み斑 脈斑 その他	1 2 3 4 9	P. henryana	
	27	葉の模様の色	成葉表面の模様の色	JHSカラーチャートの色票番号による				
	28	葉柄の長さ	最大葉の葉柄の長さ (単葉・複葉の構成比率が同程度の場合は両方が対象)	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		5cm 10cm 15cm
	29	葉柄のアントシアニンの着色	葉柄のアントシアニンの発現の有無	観察	無 有	1 9		
	30	葉色の季節変化の有無	葉色の季節変化の有無 (時期は付記する)	観察	無 有	1 9		
	31	葉色の変化後の色	葉色の変化後の色	JHSカラーチャートの色票番号による				
(単身複葉)	32	単葉の裂片数	単葉の裂片数	観察	裂片なし 3裂 5裂 7裂	1 2 3 4		

重要な 形質	番号	形質	定義	調査 方法	状態又は 区分	階 級	標準品種	備考
葉の 形状	33	単葉の裂片の 切れ込みの深さ	単葉の裂片の切れ込 みの深さ	観察 図6	浅 中 深	3 5 7	P. tricuspidata	
	34	単葉の先端の 形	単葉の先端の形	観察 図7	鋭尖形 鋭形 鈍形 円形	1 2 3 4		
	35	単葉の基部の 形	単葉の基部の形	観察 図8	鋭尖形 鋭形 鈍形 円形 心形	1 2 3 4 5		
(複葉)	36	複葉の小葉数	複葉の小葉数	観察	3枚 5枚 7枚	1 2 3		
	37	小葉柄の長さ	頂小葉柄の長さ	測定 (cm)	無又は極短 短 中 長	1 3 5 7		0.5cm 1.0cm 1.5cm
	38	小葉の長さ	頂小葉の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		5cm 10cm 15cm
	39	小葉の幅	頂小葉の幅	測定 (cm)	狭 中 広	3 5 7		3cm 6cm 9cm
	40	小葉の形	頂小葉の形	観察 図9	披針形 卵形 楕円形 円形 倒卵形 倒披針形	1 2 3 4 5 6		
	41	側小葉の形	側小葉の形 (小葉数が5枚以上の 場合は最も基部側の 小葉が対象)	観察 図10	等辺 やや不等辺 不等辺	1 2 3		
	42	小葉の先端の 形	頂小葉の先端の形	観察 図7	鋭尖形 鋭形 鈍形 円形	1 2 3 4		
	43	小葉の基部の 形	頂小葉の基部の形	観察 図8	鋭尖形 鋭形 鈍形 円形 心形	1 2 3 4 5		

注) 単葉・複葉の構成比率が同程度の場合、形質14～27及び29～31は単葉と複葉の特性が異なる場合はそれぞれの特性を併記する。

(2) 参考図

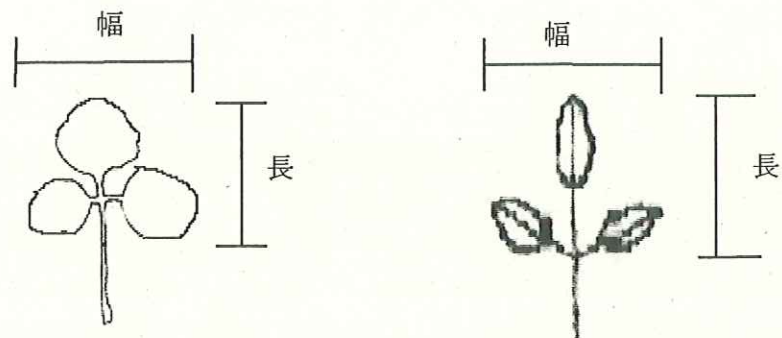
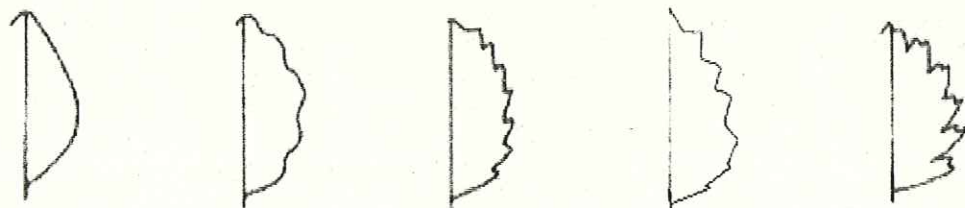
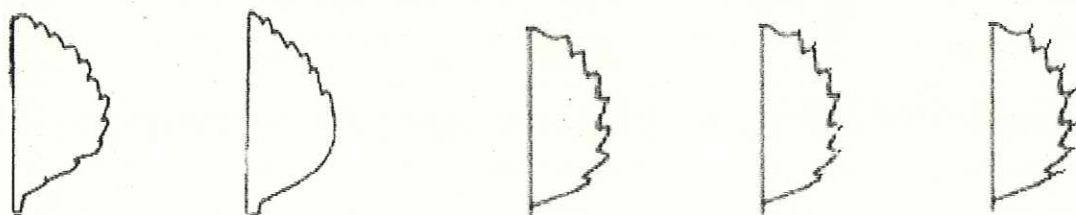


図1 葉の長さ、葉の幅（複葉の場合）（形質13、14）



1 全縁 2 円鋸歯 3 鋸歯 4 齒状 5 重鋸歯

図2 葉縁の形（形質18）



1 全体 2 上部1/2部分 3 下部1/2部分 4 上部縁 5 下部縁

図2 葉の鋸歯の位置（形質20）

図4 葉縁のとげの明瞭度（形質21）



1 覆輪



2 中斑



3 掃込み斑



4 脈斑

図5 葉の模様の種類 (形質26)



3 浅

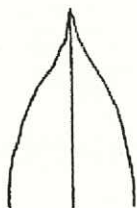


5 中

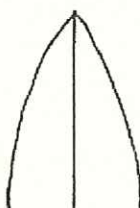


7 深

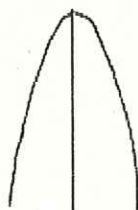
図6 単葉の裂片の切れ込みの深さ (形質33)



1 鋭尖形



2 鋭形



3 鈍形



4 円形

図7 単葉の先端の形 (形質34)、小葉の先端の形 (形質42)

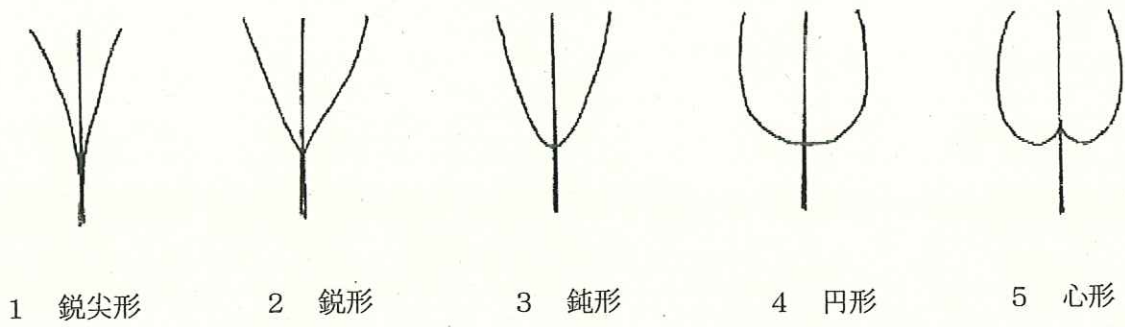


図8 単葉の基部の形（形質35）、小葉の基部の形（形質43）

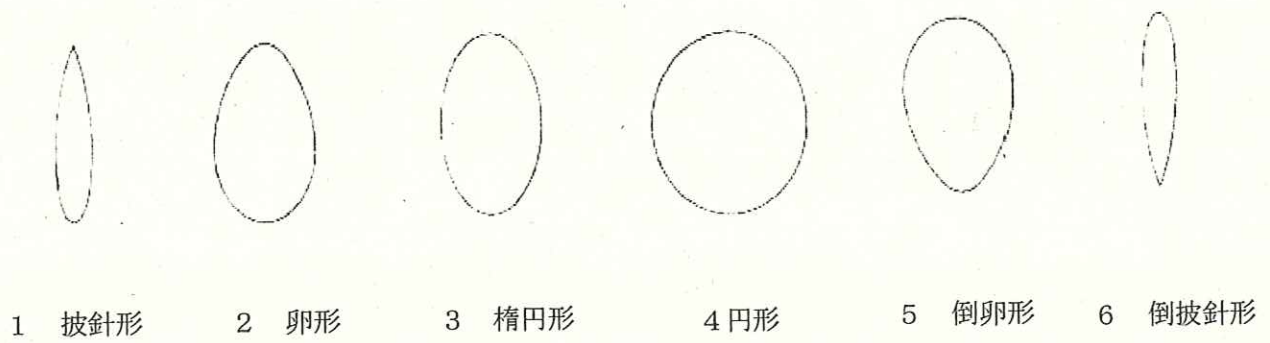


図9 小葉の形（形質40）

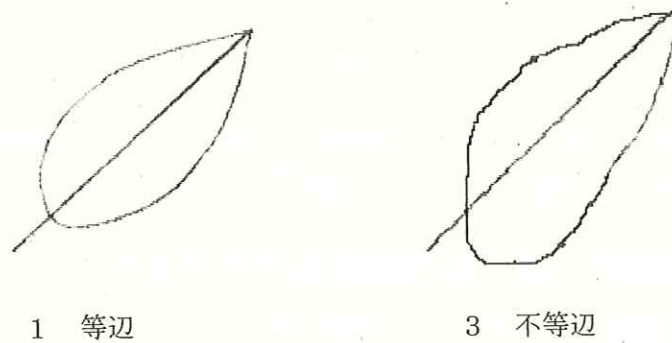


図10 側小葉の形（形質41）

特性検定のための栽培試験方法

(1) 耕種概要

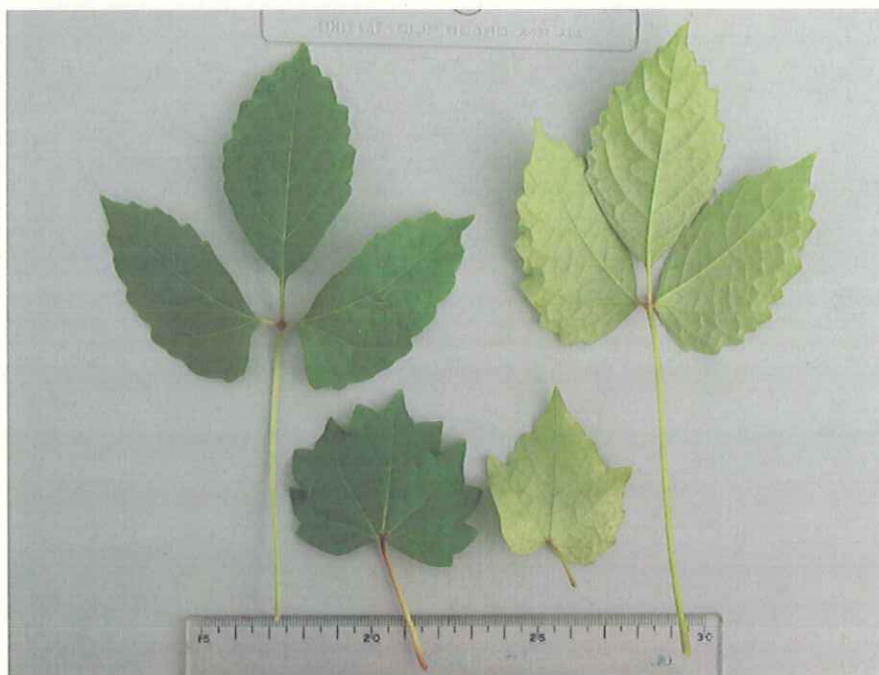
- ・ 作型 雨よけ鉢栽培
- ・ 挿し木 2～3月に熟枝挿し（節挿し、2節挿し）
用土は赤玉土（小粒）またはピートモス
発根まで20℃前後で管理する
- ・ 鉢の大きさ 4号鉢に定植する
- ・ 用土 一般園芸培養土
- ・ 摘心等 放任
- ・ 施肥 生育状況に応じ、液肥を適宜施用
- ・ 遮光 夏は直射日光を避ける

(2) 供試個体数 15個体

(3) 調査時期 調査時期の指定のない形質は、9月中～下旬頃（夏を越し、生育速度がある程度落ち着いてきた時期）

参考写真

'Veicht Boskoop' (*P. tricuspidata*)



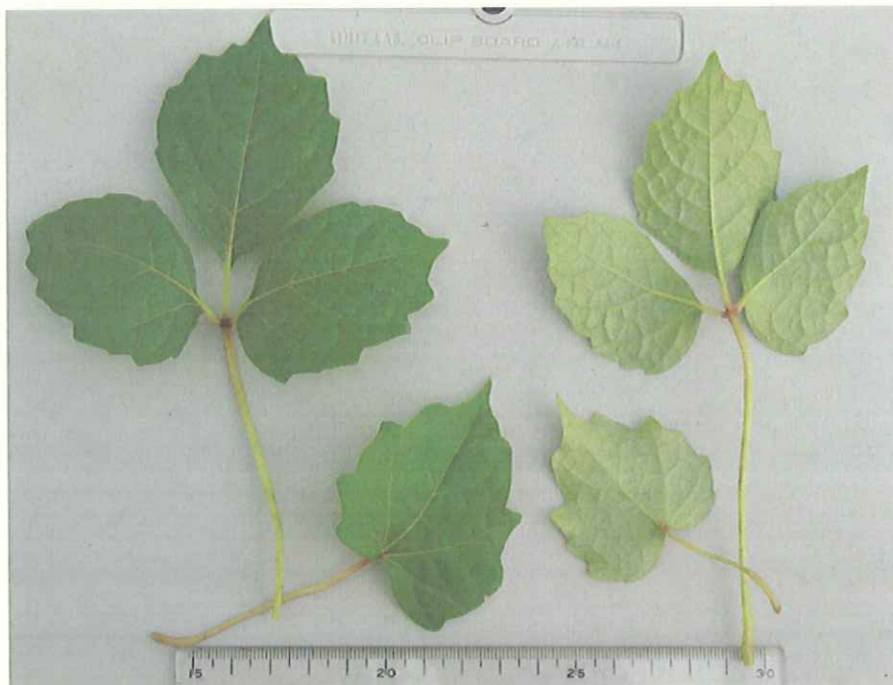
'Engelmannii' (*P. quinquefolia*)



P. inserta



'JAP' (*P. × hybridus*)



P. henryana



'Tricuspidatum' (*P. × hybridus*)



(紅葉時)



'Veicht Boskoop' (*P. tricuspidata*)
(11 月下旬)



'Engelmannii' (*P. quinquefolia*)
(11 月下旬)



'JAP' (*P. x hybridus*)
(11 月下旬)



P. henryana
(12 月中旬)